

令和3年11月吉日

神橋小学校地域防災拠点（避難所）からのお願い

神橋小学校地域防災拠点
委員長 黒澤 五夫

秋も日に日に深まってまいりました。

日頃は地域の防災活動にご理解ご協力をありがとうございます。

昨今の状況を鑑み、今年は大勢が集まっての防災訓練は開催しない判断をしました。

新型コロナはまだ収束しませんが、こんな時でも大地震が起こる可能性があります。

大地震で自宅が被災し、住むことができず、避難所へ行くことになった場合に備え、

知っておいていただきたい主なことをいくつか挙げます。



・神橋小学校を避難所とするエリアの世帯数はおよそ 5,600 世帯。

全員を収容することはとてもできません。さらに感染症対策のため、スペースを確保すると
なると、収容人数は相当少なくなります。自宅に被害がなければとどまってください。

または、近くの親戚や知人宅に避難することを考えておきましょう。

物資や情報を受け取ることはできます。

・地域防災拠点（避難所）は市内のどこか1か所でも震度5強以上を観測した際、開設されますが、**神橋小学校は風水害では開設されません。**（この近くでは神大寺小学校になります）
また、校舎や体育館に被害があり、避難所として利用できないと判断された場合は、別の
防災拠点へ行っていただくこともあります。

・車の乗り入れはできません。



・避難する際には、自分や家族に必要なものをお持ちください。

（食料・水・靴を入れる袋・スリッパ・マスク・常備薬・石鹸・衛生用品・衣類・めがね 等）

・連れてくることのできるペットは小動物です。（犬・猫・うさぎ・ハムスター・小鳥など）
その際ケージに入れ、食料は必ずお持ちください。拠点にはケージもペット用の食料も
ありません。ケージは人の生活空間とは別の場所に置くことをご了承ください。

管理は飼い主ご自身でお願いします。

ペットを飼っていらっしゃる方は、裏面を参照

災害は忘れた頃にやってくる。

できる時に、できるだけの備えをしておきましょう。

皆様のご理解とご協力をお願い致します。



1 飼い主の明示

災害時の混乱の中では、ペットと離ればなれになってしまうこともあります。大切なペットのために、飼い主の明示を徹底しましょう。 首輪・迷子札・マイクロチップなど

2 しつけ

拠点でのトラブルを防止するためや他の避難者に迷惑をかけないためにも、基本的なしつけをしておきましょう。

- ① 人や動物との接触に慣らしておく
- ② 様々な音や物に慣らしておく
- ③ キャリーバッグやケージに慣らしておく
- ④ 不必要に吠えない（鳴かない）ようにしておく
- ⑤ ペットの身体のどこでも触れるようにしておく



3 動物用避難用品の確保

地域防災拠点には、ペットフードやケージ等、ペット用品の備蓄はありません。ペットと避難する際に使用するキャリーバッグやケージとともに、少なくとも5日以上（できれば7日以上）の物資を入れた「ペット用非常持出袋」を準備しましょう。

例）フード、水、薬、ペットシート、リード、糞尿処理用具、飼育手帳（飼い主の連絡先、ペットの写真等）など

4 健康管理

狂犬病予防接種、ワクチン、ダニやノミの駆除などを日頃から実施しましょう。

5 飼い主同士の協力体制

地域防災拠点にペット同行避難をする場合、ペットの一時飼育場所にいるペットの飼育・衛生管理などは、飼い主が責任をもって行います。防災訓練などの機会を捉えて、飼い主同士で「飼い主の会（仮称）」を組織し、会の代表者を決めるなどして、飼い主同士の協力体制を作ることが大切です。

6 ペットの一時預け先の確保

地域防災拠点への同行避難が困難な場合を想定し、あらかじめペットの一時預け先を確保しておくことが大切です。災害が発生してから一時預け先を探すことは非常に困難なため、事前に調整しておきましょう。 ペットが慣れている親戚・知人、動物病院、民間団体など

横浜市ホームページ 災害時のペット対策（震災）より

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/pet-dobutsu/aigo/saigai-taisaku/disaster.html>